OSG PHOENIX
その次の翼で　この時代を
全世界を　未来を　力強くはばたく
ツール コミュニケーション
オーエスジー

2011年
4月22日
金曜日

日刊工業新聞

モノづくりの心に触れる

探訪 企業ミュージアム

開発秘話を紹介

スズキ
スズキ歴史館

●**所在地**＝浜松市南区増楽町1301
●**開館時間**＝９時―16時30分、月曜日、年末年始、スズキの夏期休暇中などは休館
●**入館料**＝完全予約制で無料

スズキの４輪１号車「スズライト」を見学する子どもたち

の製品、最新鋭の技術を紹介する企業ミュージアムでは、技術の変遷をたどれるとともに脈々と続いてきたモノづくりの心に触れられる。

「会社が大きくなっても先人の汗と苦労を忘れないように」（鈴木修スズキ会長兼社長）。スズキが創業１００周年の節目に原点に立ち返ろうと２００９年４月、本社隣にオープンした「スズキ歴史館」。ずらりと並んだ歴代の名車や子どもから大人まで楽しめる体験型展示が好評で今春、来場者が10万人を突破した。

歴史館の見学は最上階の３階「スズキものづくりの歴史」から始まる。まず目に飛び込むのが、創業者鈴木道雄氏の胸像と「鈴木式織機」の看板だ。鈴木氏が母親に楽をさせたいとの思いで「抒箱上下器搭載織機」を開発した小屋を忠実に再現、復元織機を並べている。

鈴木会長は「とくに創業初期の展示を見てほしい」と力を込める。スズキの４輪１号車「スズライト」は誕生秘話を伝える映像とともに円形ステージに展示。成長の旗頭となった「アルト」は79年の発売当時、衝撃的だった47万円という価格を決定するまでの社内の葛藤や開発者の奮闘を紹介する。

２階は「スズキのものづくり」がテーマ。実際に工場見学している雰囲気を楽しめる３Ｄシアターは迫力満点だ。海外拠点を紹介するコーナーではインドやハンガリーなど、現地の食文化や衣装を紹介、ちょっとした海外旅行気分も味わえる。

１階は「ワゴンＲ」や「スイフト」など４輪車や２輪車、船外機など現在の製品を紹介。過去から現代に向かう見学コースとなっている。

車、産業機械、工具、鉄道など分野別に展示

不二越
ナチビジネスギャラクシー

●**所在地**＝富山市不二越本町１の１の１
●**開館時間**＝随時
●**入場料**＝無料。完全予約制で、中学生以上の団体が対象

実機 間近に

不二越は１９２８年に機械工具の国産化を目指し、富山の地で創業した。今や「ＮＡＣＨＩ（ナチ）」ブランドは世界ブランドに成長。事業領域も工具からベアリングや工作機械、ロボットまで拡大した。

富山市の本社にある「ナチビジネスギャラクシー」は同社のこうした歴史の歩みや製品群、最先端の技術が見られる。取引先や学生に製品や技術を理解してもらおうと、２００２年にオープンした。

ギャラクシー内の「ナチカレント」は自動車、産業機械、工具、鉄道など分野別に展示する。造る、回す、走るという動きに使われる同社のキーテクノロジーを分かりやすく紹介。展示は日曜大工用ドリルから航空機の部品加工に使う切削工具まで幅広く、技術の進展が一目で分かるようになっている。

「ロボット・マシナリー・トライボロジーステージ」では最新の産業用ロボットがずらりと並ぶ。いずれも実際に稼働するため、複雑な動きを間近で見られる。ロボットは11台、工作機械は７台、軸受・油圧機器は18台を設置。デモ機で実際に加工評価もできる。

実機を見られるとあって、取引先だけでなくモノづくりを志す学生も熱心に見学していくという。同社では「広く学生に見てもらうことで、モノづくりへの関心を高めてほしい」（坂本淳経営企画室長）と若者にエールを送る。

フェザー安全剃刀
フェザーミュージアム

●**所在地**＝岐阜県関市日ノ出町１の17
●**開館時間**＝９時30分―16時、火曜日休館
●**入館料**＝無料。団体は要予約

世界中の理容カミソリを集めたコーナー

5000点を展示

刃物の町、岐阜県関市にあるフェザーミュージアムは、フェザー安全剃刀関工場（岐阜県関市）に併設されているカミソリの博物館だ。２０００年にオープンし、カミソリや関連資料など約５０００点を常時展示している。地元の小・中・高生や観光客を中心に年間約２万人が訪れる。

入り口では同社のテレビＣＭで使われていたカミソリ型ロボットの出迎えを受ける。天井にカミソリがびっしりと並んだロビーを抜けて、階段を上がっていくと展示室の入り口だ。冒頭はカミソリのルーツを知るコーナー。日本と世界のヒゲそり文化の歴史を石器時代にさかのぼって紹介する。黒曜石や貝殻のカミソリから現代のステンレス製カミソリに至るまでの歴史が一目で分かる。

総合研究所の紹介コーナーでは、刃先を２万倍に拡大した写真や毛髪の研究資料などを展示。より良い製品を提供するメーカーの努力を垣間見ることができる。またカミソリ製造の今と昔を昭和初期に使われていた機械や道具類と、現在の生産現場のビデオ映像で説明するコーナーは、同社ならではの展示だ。

他にもカミソリと縁の深い理髪店の歴史や、過去に発売された変わったカミソリの数々も面白い。１階には製品を試せるヒゲそりコーナーがあって、男性に人気。随所に子供が楽しめる仕掛けもある。粥川茂市フェザーミュージアム担当は「ぜひ家族連れで来てほしい」と歓迎している。

LIXIL
ＩＮＡＸライブミュージアム

「光るどろだんごづくり」は子どもたちに人気

●**所在地**＝愛知県常滑市奥栄町１の130
●**開館時間**＝10時―17時、年末年始、第３水曜日休館（祝日の場合は翌日）
●**入館料**＝一般600円、高・大学生400円、小・中学生200円、70歳以上500円

古来の美に共感

ＩＮＡＸライブミュージアムは、ＩＮＡＸ（現ＬＩＸＩＬ）が１９８６年に地域貢献の文化施設として開設した。日本でも有数の陶器「常滑焼」の窯跡や、同社の主力製品の衛生陶器やタイルの変遷をたどれる。

「窯のある広場・資料館」では産業遺産の登録有形文化財である倒焔式石炭窯と煙突を見学できる。長年の使用であめ色になった窯の内壁や地面から天に伸びる独特の構造の煙突…。大正時代、この窯で高品質の土管を製造し、常滑は陶器の一大産地として成長を遂げた。

また大型のテラコッタタイルや歴代の衛生陶器も展示している。「日本人は古来より便器に絵付けを施すなどおもてなしの文化、美意識を持っていた」（後藤泰男ミュージアム活動推進室長）。工業製品が持つ美しさを今に伝えて、モノづくり企業から空間創造企業へと変遷を遂げた同社の原点が感じ取れる。

現在は「世界のタイル博物館」や「土・どろんこ館」などを加えた５館体制で運営。土、水、火をテーマに陶器について学べる。土・どろんこ館では陶器用の粘土を丸めて削り、色をのせ、磨くワークショップ「光るどろだんごづくり」が子どもに人気。

「ＬＩＸＩＬという企業を知ってもらうだけでなく、モノづくりを体験することで、子供たちに新しい発想が芽生えたら」（辻孝二郎館長）と期待する。